

<犠牲をいとわない宝>

マタイ13：44～46

*1世紀の芸術品「ラオコーン像」を発掘した教皇ユリウス2世は、中世ヨーロッパ時代の衰退していたローマを、古代芸術によって復興させた。

【2つの譬えの登場人物】

畑に隠された宝を見つけた人・・・貧しい小作人の農夫

高価な真珠を見つけた人・・・金持ちの商人

共通点

- ・発見した喜びがあった。
- ・喜んで犠牲を払って自分のものにした。

相違点

- ・宝は日常生活の場にあったが、真珠商人は探し求めてついに見つけた。



【隠された宝の背景】

イスラエルは隣国から攻められる事が多く、民は財産を守るため地下に隠して、ほとぼりがさめるまで非難した。しかし、持ち主が現れずに地下に埋められたままという場合もあった。もし忘れ去られた宝を掘りあてた人がいたら、その取得権は掘り当てた人にあった。

◆価値あるものを手にするために払った額は関係ない。重要なのは、自分の持ち物全部を売り払った事。自分の持ち物全てを手放すほどであった事。

*パウロはキリストによって変えられた人生を振り返った。

しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。それは、私には、キリストを得、また、キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。

ピリピ3：7～9

◆どちらの人も、価値あるものと悟ったので、どんな犠牲を払ってでも自分のもの
したいと願い、躊躇せずにそうした。ことの真相を知らない周囲の人には、全財産を
払って畑をかうなど、馬鹿げたことに映ったかもしれない。

十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。

1コリント 1:18

農夫も商人も、すべてを犠牲にしてかけがえのないものを手に入れた。

私たちはどうだろうか・・・？

宝を探し当てても、手に入れるための決断と具体的行動をとらなければ、チャンスを失うことになる。しかし信仰により決断するならば、罪が赦された完全な救いをいただき、神と共に歩む人生に入れられる。イエス様の十字架と復活によって神の子どもとされるのは大いに価値あること。